

資料 2-2 中心市街地の区域と既往計画・施策との関係について

資料 2-2

- ・今回設定した中心市街地の位置及び区域について、都市計画マスタープラン、都心居住推進プランなどの既往計画や具体的な事業との関連を整理すると、今回の中心市街地は、既往計画の重点区域等の範囲内となる。
- ・また、具体的な施策についても、JR 福井駅周辺中心として、現行の中心市街地内で展開されている。
- ・周辺部では、歴史の道づくり事業が実施されているが、今後当面の 5 年間では中心市街地内における事業が中心となる。また、ウララまちなか住まい事業は、中心市街地以外では戸建て住宅が中心で、中心市街地内では高度利用が想定される共同住宅の展開が中心となっている。
- ・今後福井駅周辺で展開されていく事業（土地区画整理事業、再開発事業、新幹線開業を睨んだ事業など）は、来街者の増加など中心市街地だけでなく、中心市街地周辺部、及び福井都市圏全体に大きな効果を与えることが想定される。
- ・以上から、今後 5 年間は、現行中心市街地において、活性化のための事業を短期的・集中的に実施することにより、これまで蓄積・展開してきたストックやソフト事業をさらに充実していくことによって、来街機会の増加などの効果を高め（STEP1）、その上で、現行中心市街地周辺部へ効果を波及させる（STEP2）。

◆既往計画、施策での位置づけ・展開

都市計画マスタープラン、歴史の道づくり計画、都心居住推進プランなど

中心市街地及び周辺部を、にぎわい交流拠点や重点区域等に位置づけてきた。

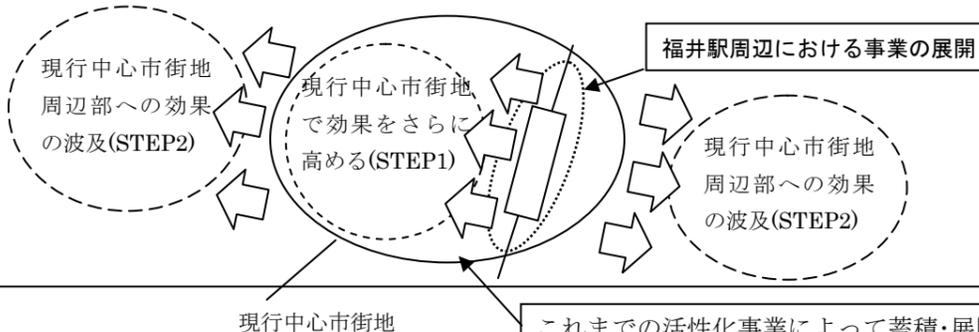
◆現行中心市街地

- ・既往計画・施策⇒活性化のためのストックや、ソフト事業を展開してきた。
- ・福井駅周辺における事業(土地区画整理事業、再開発事業、新幹線を睨んだ事業など)は、来街者の増加など現行中心市街地及び周辺部、福井都市圏全体に大きな効果を与える

◆現行中心市街地周辺部

- ・ウララまちなか住まい事業による都心居住の推進
⇒中心市街地以外では戸建て住宅が中心で、高度利用が想定される共同住宅の展開は中心市街地内での事業となっており、また、具体化の近い事業は中心市街地内となっている。
- ・歴史のみち整備計画(養浩館や足羽山周辺のまちづくり) ⇒合意形成に時間が必要

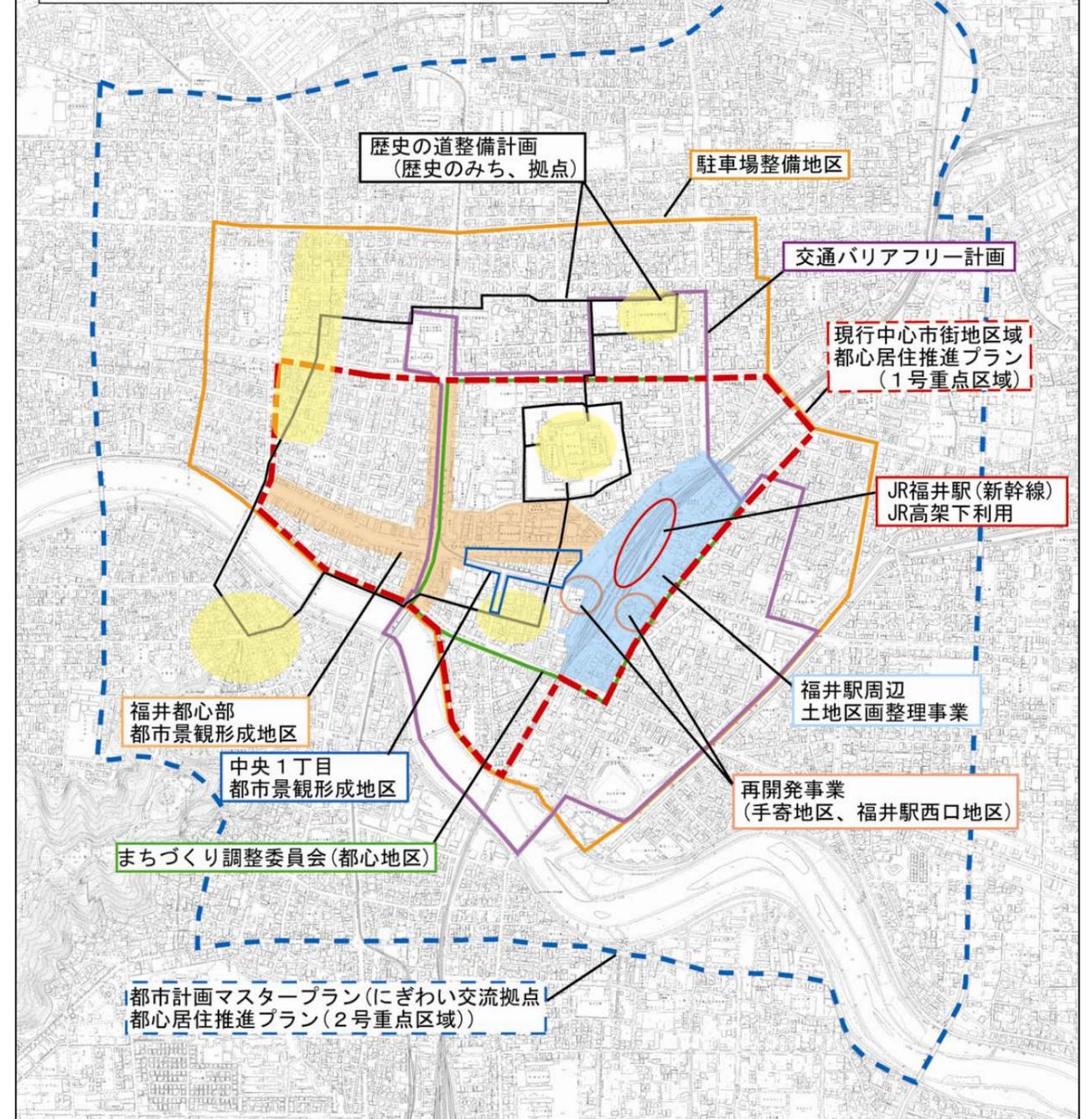
今後 5 年間は現行中心市街地内で、活性化のための事業を短期的かつ集中的に実施し、事業効果を高める。



現行中心市街地

これまでの活性化事業によって蓄積・展開してきたストックやソフト事業をさらに充実していく

図 主な既往計画・施策等の重点区域等の位置図



《中心市街地》

- ・受け皿となるために、高度利用を推進するための容積率に余裕がある。(参考資料 P9) (本計画の新たな視点として)
- ・都市福利施設：現行中心市街地及び周辺に多様な施設が立地している。(参考資料 P12~16)
- ・都心居住：人口密度が周辺部よりも低い傾向にあり、現行中心市街地を中心に人口回復を図る必要がある。(参考資料 P4)